



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

Artistic Director: Akiko Suwanai

国際音楽祭 NIPPON 2024

芸術監督：諏訪内晶子



©TAKAKI KUMADA



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

人のいるところには
夢がある。



JAPAN ARTS

AKIKO Plays CLASSIC & MODERN with Friends
~ Vienna 1800 & 1900 ~



International Music Festival NIPPON 2024



皆様と「国際音楽祭NIPPON 2024」で再びお目にかかれまことを、大変嬉しく思っております。音楽祭がスタートしてから早10年が経ちました。約3年間続いたコロナ禍でも、開催をする事が可能であったいくつかの演奏会では、日本の優れた若い演奏家達、またその演奏に共感して下さる聴衆の皆様との出会いがあり、新たな喜びを感じております。

この度も、国内外から多彩な素晴らしい音楽家にお集まりいただきます。オーケストラ公演では、ジュリアード音楽院で共にヴァイオリンを学び、その後指揮者となった、ウィーン出身のサッシャ・グッツェル氏を指揮者に迎え、音楽祭のために特別に編成された「フェスティバル・オーケストラ」との公演が実現します。また、前回のブラームス室内楽マラソンに続き今回はシューマン室内楽マラソン、1800年と1900年のウィーンを中心にプログラムを組んだ室内楽プロジェクト、ミュージアム・コンサートでは、安良岡章夫氏の委嘱作品初演があります。

10年の時間を重ね、かつてマスタークラスを受講された方々が、再び演奏家としてこの音楽祭に参加して下さることも、この音楽祭の特徴の一つとなりつつあります。

この度も変わらずご支援をいただいております企業の皆様、関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

国際音楽祭NIPPON 2024
芸術監督
諏訪内 晶子

I am very happy to see everyone once again at the International Music Festival NIPPON 2024. It has been ten years since our music festival began. Even during the three-year Covid-19 pandemic period, the relatively small number of concerts we were able to present gave us opportunities to encounter outstanding young musicians from Japan, as well as audiences who were in sympathy with and inspired by their performances, and to experience renewed joy.

In 2024, wonderful and diverse musicians from Japan and around the world will gather at the festival once again. We are pleased to present orchestra concerts in which the Viennese maestro Sascha Goetzl—with whom I studied violin at the Juilliard School and who subsequently became a conductor—will lead the Festival Orchestra, an ensemble brought together especially for this music festival. Also featured are a Schumann chamber music marathon following the previous edition's Brahms chamber music marathon and, in the chamber music project and the Museum Concert which will focus on 19th and 20th century Vienna, the premiere of a commissioned work by Akio Yasuraoka.

With our ten-year history, a special feature of this music festival is that those who previously participated as master class students are returning to participate in the festival as musicians.

I would like to express my sincere thanks once again to the corporations that have provided continued support, and to everyone who has helped make the festival possible.

Akiko Suwanai
Artistic Director
International Music Festival NIPPON 2024

AKIKO Plays CLASSIC & MODERN with Friends

～Vienna 1800 & 1900～

CLASSIC ～Vienna 1800～

2月19日(月) 19:00 東京 紀尾井ホール

February 19 Mon. 19:00 Tokyo Kioi Hall

ベートーヴェン: 2つのオブリガート眼鏡付きの二重奏曲 変ホ長調 WoO 32 (鈴木/メインツ)

L. v. Beethoven: Duo for Viola and Cello in E-flat major, WoO 32 "With 2 Obligato Eyeglasses"

第1楽章: (アレグロ) 1st Mov.: (Allegro)
第2楽章: ミヌエツト、アレグレット 2nd Mov.: Minuetto. Allegretto

モーツァルト: クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581 (諏訪内/シュミット/鈴木/メインツ/メイエ)

W. A. Mozart: Clarinet Quintet in A major, K.581

第1楽章: アレグロ 1st Mov.: Allegro
第2楽章: ラルゲット 2nd Mov.: Larghetto
第3楽章: メヌエツト 3rd Mov.: Menuetto
第4楽章: アレグレット・コン・ヴァリアツィオーニ 4th Mov.: Allegretto con variazion

パガニーニ: ロッシーニの歌劇「エジプトのモーゼ」より

「汝の星をちりばめた王座に」による序奏と変奏曲「モーゼ変奏曲」Op.24, MS 23

N. Paganini: Moses-Fantasie (諏訪内/秋元)

パガニーニ/クライスラー: ラ・カンパネラ (諏訪内/秋元)

N. Paganini / arr. F. Kreisler: "La Campanella"

シューベルト: ピアノ五重奏曲 イ長調 D667 「ます」 (シュミット/鈴木/メインツ/池松/秋元)

F. Schubert: Piano Quintet in A major, D667, "Die Forelle" (The Trout)

第1楽章: アレグロ・ヴィヴァーチェ 1st Mov.: Allegro vivace
第2楽章: アンダンテ 2nd Mov.: Andante
第3楽章: スケルツォ、プレスト 3rd Mov.: Scherzo. Presto
第4楽章: アンダンティーノ 4th Mov.: Andantino
第5楽章: フィナーレ、アレグロ・ジュスト 5th Mov.: Finale. Allegro giusto

ヴァイオリン: 諏訪内晶子、ベンジャミン・シュミット

Violin: Akiko Suwanai, Benjamin Schmid

ヴィオラ: 鈴木康浩

Viola: Yasuhiro Suzuki

チェロ: イェンス＝ペーター・メインツ

Cello: Jens-Peter Maintz

コントラバス: 池松宏

Contrabass: Hiroshi Ikematsu

クラリネット: ポール・メイエ

Clarinet: Paul Meyer

ピアノ: 秋元孝介

Piano: Kosuke Akimoto

MODERN ～Vienna 1900～

2月21日(水) 19:00 東京 紀尾井ホール

February 21 Wed. 19:00 Tokyo Kioi Hall

ベルク: ヴァイオリン、クラリネットとピアノのためのアダージョ (諏訪内/メイエ/秋元)

A. Berg: Adagio for Violin, Clarinet, and Piano

ウェーベルン: チェロとピアノのための3つの小品 Op.11 (佐藤/秋元)

A. Webern: 3 Little Pieces, Op.11

コルンゴルト: ピアノ三重奏曲 ニ長調 Op.1 (諏訪内/メインツ/ガヤルド)

E. W. Korngold: Piano Trio in D major, Op.1

第1楽章: アレグロ・ノン・トロppo・コン・エスプレッショネ 1st Mov.: Allegro non troppo, con espressione
第2楽章: スケルツォ、アレグロ 2nd Mov.: Scherzo. Allegro
第3楽章: ラルゲット 3rd Mov.: Larghetto
第4楽章: フィナーレ、アレグロ・モルト・エ・エネルジコ 4th Mov.: Finale: Allegro molto e energico

安良岡章夫: ステッラ・ビナーリア～2台のヴァイオリンのための(国際音楽祭NIPPON委嘱) <2023>

Akio Yasuraoka: 《Stella Binaria》per 2Violini

(シュミット/諏訪内)

Commissioned Work by International Music Festival NIPPON<2023>

シェーンベルク: 浄められた夜 Op.4 (シュミット/諏訪内/鈴木/中村/メインツ/佐藤)

A. Schoenberg: "Verklärte Nacht", Op.4

ヴァイオリン: 諏訪内晶子、ベンジャミン・シュミット

Violin: Akiko Suwanai, Benjamin Schmid

ヴィオラ: 鈴木康浩、中村翔太郎

Viola: Yasuhiro Suzuki, Shotaro Nakamura

チェロ: イェンス＝ペーター・メインツ、佐藤晴真

Cello: Jens-Peter Maintz, Haruma Sato

クラリネット: ポール・メイエ


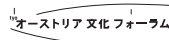
Clarinet: Paul Meyer

ピアノ: ホセ・ガヤルド、秋元孝介

Piano: José Gallardo, Kosuke Akimoto

当初発表された出演者から変更がございます。

主催: ジャパン・アーツ/日本経済新聞社

後援: ドイツ連邦共和国大使館  ドイツと日本
Zukunft gestalten
ともに未来へ / オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム  オーストリア文化フォーラム

在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本 

協力: ユニバーサル ミュージック

特別協賛:  豊田自動織機  TOYOTA  豊田通商  AISIN



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

破壊か構築か!?

沼野 雄司(音楽学) Yuji Numano

「音楽の都」ウィーン。しかし、この街が真の意味でその名に値するのは、古典派が隆盛を迎える19世紀初頭から、無調があらわれる20世紀初頭までのおよそ百年間にすぎない。旧ウィーン楽派と新ウィーン楽派の時代。

旧ウィーン楽派がハンガリーやチェコの音楽を積極的に取り込もうとしたのにたいして、新ウィーン楽派は、ドイツ・オーストリアの伝統を純化することに意を注いでいたようにもみえる。とすれば、一般には「構築」と「破壊」、あるいは「保守」と「革新」とみなされている両者は、まったく逆のモメント、すなわち「破壊的で革新的な旧ウィーン楽派」と「構築的で保守的な新ウィーン楽派」とみることが可能はずなのだ。

今回の「Classic & Modern」にはそんな企みがひそんでいる。破壊と構築。ぜひこの転倒を楽しんでいただきたい。

CLASSIC ~Vienna 1800~

船木 篤也(音楽評論) Atsuya Funaki

ベートーヴェン:2つのオブリガート眼鏡付きの二重奏曲 変ホ長調 WoO 32

謎めいた題をもっと平易に訳すなら「眼鏡が2つ要る二重奏曲」とでもなろうか。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)が知り合いのヴィオラ奏者とチェロ奏者のために書いたもので、この二人が眼鏡をかけていたのだろう。19世紀の終わりにスケッチのかたちで発見された。4楽章構成が計画されていたようだが、演奏可能なのは冒頭のアレグロ楽章と、メヌエット楽章のみ。それらにしても、強弱や弓遣いの指定はなく、出版者や奏者が独自に判断せねばならない。作曲は1800年「頃」とされている(1796年説あり)が、いずれにしても、ベートーヴェンが生まれ故郷ボンからウィーンに移ってからの作品である。

モーツァルト:クラリネット五重奏曲 イ長調 K.581

ベートーヴェンの先輩、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-1791)もウィーン移住組で、ザルツブルクからやってきた。わずか35年となる人生の、最終局面において。クラリネット五重奏曲の創作は1789年と、なかでも晩年にあたる。

18世紀によく発展をみた新参の楽器、クラリネットに、モーツァルトはこのほか魅せられていたというが、本作に関しては刺激をもらった具体的な人物がいる。ウィーン宮廷楽団の名クラリネット奏者、アントン・シュタードラーである。当時開発された低いハ音まで出るバスクラリネット(現在でいうバセットクラリネット)を見事に奏した人で、モーツァルトは彼が吹くこの楽器への「当て書き」としてこの五重奏を書いた。現在ではしかし、たいてい通常のクラリネットで吹く。早春の青空のように美しい全4楽章。

パガニーニ:ロッシェニの歌劇「エジプトのモーゼ」より

「汝の星をちりばめた王座に」による序奏と変奏曲「モーゼ変奏曲」Op.24, MS 23

ウィーンは多民族・多文化が行き交い、混在する都市。音楽も、それゆえに、この地で豊かに実ったのだ。隣国イタリアから、ヴァイオリンの超絶技巧で鳴らしたニコロ・パガニーニ(1782-1840)がやって来たのもその一例。メッテルニヒ宰相の招きで1828年3月から7月まで滞在し、全14回の公演を大好評のうちに催した。

「モーゼ変奏曲」は、うち4回もの公演でパガニーニが披露した演目で、旧約聖書に材をとったロッシェニの歌劇「エジプトのモーゼ」の音楽が基になっている。歌劇の終盤で、エジプトを脱出しようとするヘブライ人が行く手を紅海に阻まれる。そこでモーゼが神に祈る歌が「汝の星をちりばめた王座に」であり、この旋律でもって曲は開始。ただし「主題」の提示は行進曲調になってからで、その変奏がこれに続く。一貫してヴァイオリンの一番低い弦であるG線で奏される。ウィーンでもすでにロッシェニ旋風が巻き起こっていたから、さぞかし受けたことだろう。

パガニーニ/クライスラー:ラ・カンパネラ

パガニーニのウィーン初公演は1828年3月29日で、ベートーヴェンはもう他界していたが、シューベルトはこれを聴いている。そして大いに感嘆、「アダージョでは天使が歌うのを聴いた」と言ったとか。この「アダージョ」とは、パガニーニのヴァイオリン協奏曲第2番・第2楽章のことなのだが、この協奏曲はむしろ第3楽章で有名だろう。オーケストラ中の鐘パート(多くはグロックンシュピールなどで演奏)と、フラジオレット奏法を駆使する独奏ヴァイオリンとのかけ合いが特徴的なことから、ラ・カンパネラ(鐘)のあだ名がついた。これから聴くのは、この楽章のピアノ伴奏版である。フリッツ・クライスラー(1875-1962)が編曲したこの版は、原曲の中間部を省いた短縮版だ。

シューベルト:ピアノ五重奏曲 イ長調 D667 「ます」

もはや王侯貴族に頼らない(頼れない)、市民時代の作曲家。フランツ・シューベルト(1797-1828)は、ウィーンにおけるその最初期の一人であろう。10代で書いた弦楽四重奏曲群は、もっぱら家族で楽しむためのものだった。室内楽にはしかし、貴族のためでもない、家庭のためでもない、第3の場が当時ひらけ始めていた。「コンサート」である。シューベルトが弦楽四重奏曲第13番「ロザムンデ」でそちらに打って出るのは、1824年。ピアノ五重奏曲「ます」は、この転換へのちょうど途上にある作品だ。

1819年、もしくは1823年の作。音楽愛好家、ジルヴェスター・パウムガルトナーが「フンメルふう」の曲を所望したのがきっかけで、ピアノ、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスという一風かわった編成を採っているのも、ヨハン・ネボムク・フンメル(1778-1837)の五重奏曲にならったためである。チェロを積極的にメロディー楽器として扱っている点に注目。ハーモニーの土台役はコントラバスに任せよう、というわけだ。

全5楽章。「ます」のあだ名は、第4楽章の主題がシューベルトの歌曲「ます」から採られていることに由来する。依頼者パウムガルトナーお気に入りの旋律で、その変奏が展開する本楽章は、たしかに本作の要と言えよう。

MODERN ~Vienna 1900~

沼野 雄司(音楽学) Yuji Numano

ベルク: ヴァイオリン、クラリネットとピアノのためのアダージョ

アルバン・ベルク(1885-1935)の代表作といえば、誰もがふたつのオペラ——「ヴォツェック」と「ルル」——を思い浮かべるだろう。この両オペラの間には彼が書いた、きわめて重要な作品が「室内協奏曲」(1925)である。

ベルクはこの曲のなかに、師への感謝、そして仲間たちとの交友をひそかに織り込んだ。たとえば、最初の楽章のあたまではアルノルト・シェーンベルクの名から取った音列「a-d-es-c-h-b-e-g」が示され、そのあと盟友ウェーベルンの名から取った音列「a-e-b-a」、そして自分の名をあらわす「a-b-a-b-e-g」があらわれるのである。なんとも麗しい友情。

理由は定かではないのだが、最晩年の1935年、この曲の第2楽章「アダージョ」を、ベルクは自らヴァイオリン、クラリネット、ピアノのために編曲した。この編成による楽曲は19世紀にはバウスネルン(「セレナード」1898)くらいしか見当たらないが、20世紀にはいと、ストラヴィンスキー「兵士の物語」のトリオ版(1919)が初演されているから、もしかするとベルクはこれに影響されたのかもしれない。演奏時間は13分ほど。

編曲はシンプルで、ヴァイオリンはほぼ原曲のまま、ピアノは管楽器の和音を、そしてクラリネットは重要な対旋律を担当する。中央部でピアノの左手は低い「D#」を12回連打するが、この部分を軸にして楽曲は左右対称な鏡像形をなす。

ウェーベルン: チェロとピアノのための3つの小品 Op.11

アントン・ウェーベルン(1883-1945)の作品は、演奏時間が極度に短いものが多い。1914年に書かれたこの「3つの小品」も、第1曲が9小節、第2曲が13小節、第3曲が10小節という短さ。テンポの速い第2曲などは、たいていの場合15秒程度で終わってしまう(!)。まさに音の俳句というべきか。

第1曲は「中庸な速度で」。チェロ・パートは弱音器をつけてはじまり、次に倍音を響かせたかと思えば、駒のうえでガリっとした音をだし、さらにはピツィカートを経たのちに、指板に寄せて弓を使う、といった具合に、わずかに9小節のあいだに目まぐるしく奏法を変化させる。第2曲は「とても活気づいて」。長7度の音程を基盤にしなが、怒気を孕んだように音楽が進む。第3曲は「きわめて静かに」。10小節のなかにチェロの最弱音が8つ。停滞した時間のなかでチラチラと音が光り、再び静寂に沈んでゆく。

コルンゴルト: ピアノ三重奏曲 ニ長調 Op.1

音楽史のなかでも例外的な「神童」として知られるエーリヒ・ヴォルフガング・コルンゴルト(1897-1957)が最初に出版した作品。

ほほえましいのは、ユニヴェルザール社から出ているこの楽譜の冒頭に、わざわざ「まえがき」として、コルンゴルトが1897年5月に生まれたこと、そしてこの楽曲が1910年4月に作曲されたことが記されている点だ。つまり出版社(あるいはステージパパのユリウス?)は、まだ12歳の少年が書いた曲であることをアピールしたかったのだろう。

やや鼻白む気もするけれども、曲を聴いてみれば、そう言いたくなる気持ちもよく分かる。なにしろ楽曲冒頭から、ほのかな甘みを湛えた旋律が、3つの楽器のはざままでふわりと花ひらく。しかもその後ほどなくして明らかになるのは、この少年がブラームスばりの重厚なモチーフ操作と対位法的な構築美までをもすでに身につけていることなのだ……。

第1楽章は定石通りのソナタ形式で書かれているが、その手つきは転調・楽器法・主題操作といった点でいずれも堂に入って、一種の風格さえ漂っている。第2楽章はスケルツォ。ワルツのようなリズムを交えつつ、ピアノを主体に進んでゆくと、トリオ部では一転してヴァイオリンが艶やかな旋律を奏でる。第3楽章はチェロの不安定な音程ではじまるラルゲット。ピアノの極度に精妙な和声か聴きもの。そして第4楽章は、前楽章の主題を変形した主題をもつフィナーレ。雑多な内容を強引に押しこんでしまう手腕が鮮やかだ。

シェーンベルク: 浄められた夜 Op.4

アルノルト・シェーンベルク(1874-1951)によって1899年に作曲された弦楽六重奏曲。のちに弦楽合奏版も作られた。

よく知られているように「浄められた夜」というタイトルはリヒャルト・デーメル同名の詩に由来しており、実際、曲は詩の内容をかなり忠実に音楽化したものといえる。1902年の初演が不評だったのは、おそらくは無調きりぎりまで迫った流動的な響き、そして性的なニュアンスをたっぷり含んだデーメルの詩の双方が原因だったのだろう。

詩は、女が他人の子を身ごもっている事実を静かに語りだす冒頭から、男が女の過ちを自分のものとして引受け、二人で「浄められた」夜のなかを歩いてゆく終結部まで、凜とした静謐が全体を貫いている。この詩を、シェーンベルクの音楽はかなり抒情的に音楽化しているが(基本的に女の話はヴァイオリン、男の話はチェロに割り振られている)、なにより素晴らしいのは、30分ほどの時間のなかで、暗く弱い色調が徐々に——本当に粘り強く慎重に——まばゆく強い光へと変貌してゆく点だ。ここには25歳の作曲家の尋常ではない集中力がはっきりと示されている。

安良岡章夫: ステラ・ビナーリア〜2台のヴァイオリンのための(2023)

《Stella Binaria》は天文用語で連星を意味するイタリア語である。連星には、両星間の距離が近すぎてガスの外層を共有したり、互いの重力で形が歪んだり、伴星が主星(明るい方)の手前を日食のように横断し光度を変化させる等、様々な種類が存在する。2台のヴァイオリンによる新作という委嘱を頂いた際、まずは2人の奏者による協奏・隔離(遠近感)・拮抗を意図したが、その発想と各種連星の軌道運動に相通ずるものがあり、このタイトルに至った。

曲は右手・左手によるピツィカートが主体の点描より導入、次第に自然倍音による淡い音像へと推移する。突如角張った2つの線が絡み合い、重音による量感のある楽想と交錯し、多様な運動を生みつつ展開された後、冒頭の点描が再現し曲を閉じる。19日にパガニーニ作品が演奏されたことに準じ、彼の技巧を意識的に取り入れた。昨年9月から11月にかけて作曲。演奏時間約8分30秒。

安良岡 章夫

安良岡 章夫(やすらおか・あきお)

1984年東京藝術大学大学院修了。野田暉行、三善晃の両氏に師事。日本音楽コンクール第1位、日本交響楽振興財団作曲賞、芸術祭優秀賞等受賞。桐朋学園大学作曲科教授を経て現在東京藝術大学教授。これまでに理事、副学長を歴任。多彩な作曲活動を行うと共に、現代作品の指揮にも力を入れ、多数の作品の初演を手掛ける。

Profile

Akiko Suwanai



©Kyotaka Saito

諏訪内 晶子 (国際音楽祭NIPPON2024 芸術監督／ヴァイオリン)

1990年史上最年少でチャイコフスキー国際コンクール優勝。これまでに小澤征爾、マゼール、デュトワ、サヴァリッシュ、ゲルギエフらの指揮で、ボストン響、フィラデルフィア管、パリ管、ロンドン響、ベルリン・フィル、N響など国内外の主要オーケストラと共演。BBCプロムス、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン、ルツェルンなどの国際音楽祭にも多数出演。

2012年、2015年、エリーザベト王妃国際コンクール、2018年ロン＝ティボー国際コンクール、2019年チャイコフスキー国際コンクールヴァイオリン部門審査員。2012年より「国際音楽祭NIPPON」を企画制作し、同音楽祭の芸術監督を務めている。また、これまでにデッカより15枚のCDをリリースしている。

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。文化庁芸術家在外派遣研修生としてジュリアード音楽院本科及びコロンビア大学に学んだ後、同音楽院修士課程修了。国立ベルリン芸術大学で学び、2021年学術博士課程修了、ドイツ国家演奏家資格取得。

使用楽器は、日本にルーツをもつ米国在住のDr. Ryuji Uenoより長期貸与された1732年製作のグアルネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。

Akiko Suwanai (Violin / Artistic Director of International Music Festival NIPPON 2024)

Akiko Suwanai was the youngest ever winner of the International Tchaikovsky Competition in 1990. She has performed with the world's foremost orchestras, including the Boston Symphony, Philadelphia Orchestra, Orchestre de Paris, Berlin Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra, under the batons of Ozawa, Maazel, Dutoit, and Sawallisch, just to name a few. She has appeared in numerous international music festivals including the BBC Proms, Schleswig-Holstein, Lucerne and others. Suwanai was a jury member of the violin divisions of the Queen Elisabeth International Music Competition of Belgium in 2012 and 2015, the Concours International Long-Thibaud-Crespin in 2018, and the International Tchaikovsky Competition in 2019. Since 2012, Akiko Suwanai has been Artistic Director of the International Music Festival NIPPON, which she plans and produces. She has released 15 CDs on the Decca label. Akiko Suwanai studied at Toho Gakuen Music High School and completed the Soloists' Diploma Course of Toho Gakuen College of Music. After studying at the Juilliard School and Columbia University on the Artist Overseas Training program sponsored by the Agency for Cultural Affairs, she received a master's degree in Music from the Juilliard School. She also studied at the Universität der Künste Berlin, and in 2021 completed the doctor of arts program and received the Konzertexamen degree, Germany's qualification for outstanding musicians.

Akiko Suwanai performs on the "Charles Reade" Guarneri del Gesù violin c1732, on long-term loan from Dr. Ryuji Ueno, who has Japanese roots and lives in the United States.

Profiles

ベンジャミン・シュミット (ヴァイオリン)

1992年カール・フレッシュ・コンクール優勝。小澤征爾指揮／ウィーン・フィルをはじめ、ロンドン・フィル、サンクトペテルブルグ・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管などの著名オーケストラと共演。60枚以上のCDをリリースし、ドイツ・レコード賞ほか多数受賞。ジャズ即興でも高い評価を得ている。ザルツブルク・モーツァルテウム大学教授。ミュンヘンをはじめとする国際コンクールの審査員を務める。

Benjamin Schmid (Violin)

Winner of the Carl Flesch Competition in 1992. Benjamin Schmid has performed with renowned orchestras such as the Vienna Philharmonic Orchestra conducted by Seiji Ozawa, the London Philharmonic Orchestra, Saint Petersburg Philharmonic Orchestra, and Concertgebouw Orchestra. He has released over 60 CDs and received numerous awards including the German Record Critics' Award. He is also highly acclaimed for his jazz improvisations. Schmid is a professor at the Mozarteum University Salzburg. He has served as a jury member for international competitions including the ARD International Music Competition Munich.



Benjamin Schmid



Yasuhiro Suzuki

鈴木 康浩 (ヴィオラ)

読売日本交響楽団ソロ・ヴィオラ奏者。第7回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部第1位ほか受賞多数。2001年よりカラヤン・アカデミーで研鑽を積み、ベルリン・フィルの契約団員となる。サイトウ・キネン・フェスティバル、宮崎国際音楽祭など多方面で活躍。国際音楽祭NIPPON2020、2022参加。

Yasuhiro Suzuki (Viola)

Yasuhiro Suzuki is a principal solo violist with the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra. Suzuki has won many prizes, including 1st Prize in the high school division of the Tokyo round of the 47th Student Music Concours of Japan. Suzuki trained at the Karajan Academy in Germany starting in 2001, and became an associate member of the Berlin Philharmonic. His wide-ranging activities also include appearances at the Saito Kinen Festival and the Miyazaki International Music Festival. He participated in the International Music Festival NIPPON2020 and 2022.



Shotaro Nakamura

中村 翔太郎 (ヴィオラ)

第15回コンセール・マロニエ21弦楽器部門第1位、他多数受賞。ウィーン・フィル、ベルリン・フィルのメンバーと共演するなど国内外で活躍している。東京藝術大学卒業。弦楽アンサンブル「TGS」代表。Alto de Campagne (ヴィオラ四重奏)メンバー。NHK交響楽団首席代行ヴィオラ奏者。

Shotaro Nakamura (Viola)

Shotaro Nakamura won first prize in the strings division of the 15th Concert Marronnier 21, as well as many other prizes. His activities in Japan and overseas include performances with members of the Vienna Philharmonic Orchestra and Berlin Philharmonic Orchestra. Nakamura graduated from Tokyo University of the Arts. He is a leader of the string ensemble TGS, a member of the viola quartet Alto de Campagne, and acting principal violist in the NHK Symphony Orchestra.



Jens-Peter
Maintz

イェンス＝ペーター・マインツ(チェロ)

1994年ミュンヘン国際音楽コンクールにおいてチェロ部門17年ぶりの優勝者となる。2006年よりクラウディオ・アバドの招聘をきっかけにルツェルン祝祭管弦楽団ソロ・チェリストを務めている。これまでにアシュケナージ、プロムシュテットらと共演。2004年よりベルリン芸術大学教授。

Jens-Peter Maintz (Cello)

In 1994, he won first prize at the ARD International Music Competition, which had previously not been awarded to a cellist for 17 years till then. He has been principal cellist of the Lucerne Festival Orchestra since 2006, at the invitation of Claudio Abbado. He has appeared as a soloist under the baton of conductors such as Vladimir Ashkenazy, Herbert Blomstedt. Since 2004 he has been professor at Berlin University of the Arts.



Haruma
Sato

佐藤 晴真(チェロ)

2019年、ミュンヘン国際音楽コンクール チェロ部門において日本人として初めて優勝。2018年にはルトスワフスキ国際チェロコンクールにおいて第1位および特別賞など多数の受賞歴を誇る。バイエルン放送響はじめ国内外の主要オーケストラと共演しており、リサイタル、室内楽でも好評を博している。2020年のデビューアルバムより、ドイツ・グラモフォンから3枚のCDをリリース。

Haruma Sato (Cello)

In 2019, he became the first Japanese to win the first prize (violoncello) at the ARD International Music Competition Munich, and in 2018, he won the first prize and a special prize at the Witold Lutoslawski International Cello Competition. He has performed with Bavarian Radio Symphony Orchestra and other major orchestras in Japan and abroad, and has received favorable reviews for his recitals and chamber music. Since his debut album in 2020, he has released 3 CDs on Deutsche Grammophon.



Hiroshi
Ikematsu

池松 宏(コントラバス)

ブラジル生まれ。世界トップ奏者として国内外で幅広く活躍する。NHK交響楽団首席奏者、ニュージーランド交響楽団首席奏者を経て、現在、東京都交響楽団首席奏者。東京藝術大学教授、国立音楽大学客員教授。

Hiroshi Ikematsu (Contrabass)

Born in Brazil, Hiroshi Ikematsu has performed widely in Japan and overseas as one of the world's top contrabass players. Having served as principal contrabass player in the NHK Symphony Orchestra and New Zealand Symphony Orchestra, he is currently principal contrabass player of the Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra. Hiroshi Ikematsu is a professor at Tokyo University of the Arts and a guest professor at Kunitachi College of Music.



Paul
Meyer

ポール・メイエ(クラリネット)

名実共に世界のトップに立つクラリネット奏者。完璧な技術とずば抜けた音楽性、品のある豊かな音色を併せ持つ。ソリスト、室内楽、指揮者として幅広く活動し、現代最高のフランスの木管奏者達と結成した「レ・ヴァン・フランセ」のメンバーとしても活躍。

Paul Meyer (Clarinet)

A clarinetist at the international pinnacle of his field in both name and brilliance, Paul Meyer combines consummate technique with outstanding musicianship and a rich, elegant tone. Widely active as a soloist, chamber musician and conductor, Meyer is a member of Les Vents Français, a group he formed together with some of the finest French woodwind players of our time.



José
Gallardo

ホセ・ガヤルド(ピアノ)

アルゼンチン出身。マインツ大学音楽学部卒業。国内外で数多くの賞に輝き、ロッケンハウス、ヴェルピエ、ルツェルンなど多くの音楽祭に招かれる。ギドン・クレーメル、アンドレアス・オッテンザマー等と共演。EMI、ヘンスラー、ナクソス等からCDをリリース。SWRをはじめとするテレビ、ラジオ番組のための録音でも活躍している。2008年からアウグスブルク大学のレオポルト・モーツァルト・センターで後進の指導にあたっている。

José Gallardo (Piano)

Born in Argentina, José Gallardo graduated from the Mainz School of Music. He has received numerous national and international awards, and has been invited to perform in many music festivals including Lockenhaus, Verbier and Lucerne. Gallardo has performed with musicians such as Gidon Kremer and Andreas Ottensamer, and released CDs on labels including EMI, Hänssler and Naxos. He has also recorded for TV and radio productions by broadcasters such as SWR. Since 2008, José Gallardo has been teaching at the Leopold Mozart Center at the University of Augsburg.



Kosuke
Akimoto

秋元 孝介(ピアノ)

2018年、葵トリオのメンバーとしてミュンヘン国際音楽コンクールのピアノ三重奏部門にて優勝。パデレフスキ国際ピアノコンクールでは特別賞を受賞した。ソロリサイタルのほか室内楽やオーケストラとの共演も行っている。東京藝術大学を卒業後、同大学院修士課程を修了。サントリーホール室内楽アカデミーでも学んだ。国際音楽祭NIPPON2022参加。

Kosuke Akimoto (Piano)

Kosuke Akimoto is a member of Aoi Trio, which won the first prize at the 67th ARD International Music Competition in 2018. He also won the Special Prize in the 10th Paderewski International Piano Competition. In addition to giving solo recitals, he performs frequently with orchestras and in chamber music concerts. After graduating from Tokyo University of the Arts, Kosuke Akimoto received a master's degree from that university's Graduate School of Music. Akimoto is a alumni of the Suntory Hall Chamber Music Academy. He participated in the International Music Festival NIPPON2022.



国際音楽祭 NIPPON 2024 芸術監督: 諏訪内晶子



【東京開催】Tokyo

AKIKO SUWANAI Plays モーツァルト ヴァイオリン協奏曲 全曲演奏会

Mozart The Complete Violin Concertos

1月11日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
January 11 Thu. 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

1月12日(金)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール
January 12 Fri. 19:00 Tokyo Opera City Concert Hall

AKIKO Plays CLASSIC & MODERN with Friends ~ Vienna 1800 & 1900

CLASSIC ~ Vienna 1800 ~

2月19日(月)19:00開演 紀尾井ホール
February 19 Mon. 19:00 Kiou Hall

MODERN ~ Vienna 1900 ~

2月21日(水)19:00開演 紀尾井ホール
February 21 Wed. 19:00 Kiou Hall

シューマン室内楽マラソンコンサート

R.Schumann Chamber Music Marathon Concert

2月23日(金・祝) 東京オペラシティ コンサートホール
February 23 Fri. Tokyo Opera City Concert Hall

【第1部】11:00開演 【第2部】14:00開演 【第3部】16:00開演 【第4部】19:00開演



【愛知開催】Aichi

AKIKO SUWANAI Plays モーツァルト ヴァイオリン協奏曲

Mozart Violin Concertos

1月13日(土)18:00開演 三井住友海上しらかわホール
January 13 Sat. 18:00 MS&AD SHIRAKAWA HALL

ミュージアム・コンサート

Museum concert

2月18日(日)19:00開演 トヨタ産業技術記念館 エントランス・ロビー
February 18 Sun. 19:00 Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology Entrance Lobby



【岩手開催】Iwate

~諏訪内晶子&フレンズ~ コンサート in 大船渡

AKIKO SUWANAI & Friends Concert in Ofunato

2月17日(土)14:00開演 大船渡市民文化会館 リアスホール
February 17 Sat. 14:00 Rias Hall(Ofunato City Culture Hall)



【神奈川開催】Kanagawa

公開マスタークラス <チェロ部門>

Open Master Classes <Cello Division>

2月11日(日・祝) フィリアホール リハーサル室(横浜市青葉区民文化センター)
February 11 Sun. PHILIA HALL/Rehearsal Room (Aoba Civic Cultural Center)

2月12日(月・休) 横浜みなとみらいホール 小ホール
February 12 Mon. Yokohama Minatomirai Hall Small Hall

公開マスタークラス <ヴァイオリン部門>

Open Master Classes <Violin Division>

2月26日(月)・27日(火) フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター)
February 26 Mon. and 27 Tue. PHILIA HALL (Aoba Civic Cultural Center)



INTERNATIONAL
MUSIC FESTIVAL
NIPPON

主催: ジャパン・アーツ / 日本経済新聞社 / 大船渡市(2/17)

共催: [愛知] 中日新聞社 / CBCテレビ [岩手] 岩手日報社 / IBC岩手放送

後援: ドイツ連邦共和国大使館 / オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム / 在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本
東海新報社(2/17)

特別協賛: 豊田自動織機 TOYOTA 豊田通商 AISIN

協力: ユニバーサル ミュージック / トヨタ産業技術記念館(2/18)

[神奈川] フィリアホール(横浜市青葉区民文化センター) / 横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

企画制作: ジャパン・アーツ

プログラム監修: 沼野雄司 船木篤也

マネージメント: [東京] ジャパン・アーツ [愛知] クラシック名古屋

制作協力: [岩手] 岩手県文化振興事業団



CDデビューから25周年

諏訪内晶子が遂にバッハの金字塔、無伴奏作品を録音!

コロナ下で真摯に向き合い続けた新たな銘器、
ガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」を演奏しての新録音。

DECCA

好評
発売中

J.S. バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタと パルティータ(全曲) 諏訪内晶子

ヨハン・セバスティアン・バッハ:

無伴奏ヴァイオリン・ソナタとパルティータ(全曲)

BWV1001-1006

- Disc 1**
1. ソナタ 第1番 ト短調 BWV1001
 2. パルティータ 第1番 口短調 BWV1002
 3. ソナタ 第2番 イ短調 BWV1003
- Disc 2**
1. パルティータ 第2番 二短調 BWV1004
 2. ソナタ 第3番 ハ長調 BWV1005
 3. パルティータ 第3番 ホ長調 BWV1006

諏訪内晶子 (ヴァイオリン)

録音: 2021年6月7日~11日、7月10日~13日 バールン(オランダ)、ホワイト・チャーチ

- 初回限定盤はSA-CD/ハイブリッドで、阿川佐和子氏によるライナーノーツ入り。通常盤とは絵柄違いのスリーブケース付。
- 使用楽器は1732年製のガールネリ・デル・ジェズ「チャールズ・リード」。



【通常盤】
UHQC
2枚組
UCCD-45005/6
定価 ¥ 4,400
(本体 ¥ 4,000 税率10%)



【初回限定盤】
SA-CD
ハイブリッド2枚組
UCGD-9086/7
定価 ¥ 5,800
(本体 ¥ 5,273 税率10%)



発売: ユニバーサル ミュージック



22世紀を

移動の真ん中に

AISIN

動かそう

www.aisin.com/jp 株式会社 アイシン

トヨタ自動車株式会社



モビリティを通じて、もっと住みやすい社会に。

全ての人が、楽しく自由に移動できる世界を、想像してみませんか。

もうすぐそこに、そんな社会が近づいて来ています。

私たちは、誰もがそれぞれの可能性にチャレンジできる社会づくりを目指しています。

TOYOTA

2050年、この星のどこかで。
君たちは笑っていますか。



カーボンニュートラルという言葉がまだなかった数十年前から、
グループ全社をあげて、脱炭素に取り組んでいます。

未来の子供たちに、よりよい地球環境を。
とどける商社、豊田通商。

Be the Right ONE
豊田通商

組み立てると未来ができる。



創業から続く繊維機械事業を原点に、
自動車や産業車両、物流ソリューションへと、
人々の暮らしを豊かにする事業に挑戦してきました。
これからも新たな領域に挑み、
温かい社会づくりに貢献する企業であり続けます。

豊田自動織機

www.toyota-shokki.co.jp